

第7回ごみ有料化等検討委員会

会議録

平成23年9月15日(木) 午後2時00分～

市役所4階 大会議室

【出席委員】 浅利委員長、三木副委員長、藤堂委員、小林委員、藤尾委員、樽井委員、高森委員、石川委員、相川委員、公門委員、奥田委員、横井委員、松本委員

【欠席委員】 中西委員、安原委員、筒井委員、山田委員

【事務局】 森住専門委員
奥谷生活環境部長、中谷環境事業課長、辻中環境事業課長補佐、大窪事業係長、竹本管理係長、鳴川管理係員
地域計画建築研究所 長澤

【配布資料】

- 資料1 家庭系ごみ有料県内他市状況
- 資料2 有料化市の資源物有料化実施状況
- 資料3 全国のごみ処理手数料の徴収方法の状況
- 資料4 手数料の料金体系
- 資料5 不法投棄の発生状況等
- 資料6 その他案件資料
- 資料 紙ごみの減量に向けて

1 開会

傍聴者確認4名

事務局：本日の会議の会議録署名委員については、松本委員と藤堂委員にお願いします。

委員長：勉強会をされていたということなので、報告を受けてから話し始めます。

専門委員：報告します。主な意見はやはり最初の検討の疑問がとれてないようで、有料化

ありきの結論が先にあって、その方向に引っ張っていつているように映る。有料化せざるをえないような認識にはなっていないので共通認識になれるような方向でこの議論をしてもらいたいという全体のまとめです。

委員長：ありがとうございました。事務局の方で、一度説明したつもりでいたが十分に共有できていない部分もあるので、丁寧に進めていこうということです。

委員：今半分ぐらい会議をしているが、ごみ有料化ありきということで始まっている感じがする。

毎回色眼鏡をかけないで見ているが、有料にするのに有利なような展開で資料をだしてきて、それに向け進んでいるようにしか思えない。委員長、副委員長もどちらも同じような方向で、有料化ありきの方向で資料を配られてくる。アメリカ人だったら必ずこの委員会をアンフェアと言います。アンフェアとは、公正でない、非常に偏ったという意味です。今まで税金等払っているから有料の反対で市から我々に払い戻すというような方向で資料を今から出したらどうかと思っている。市議員の方が出している紙の中で4つくらい重点を書いている。それは家庭ごみの資源化をさらに進めることを重点とすべき。生駒市の人口が増えているのにごみが減っているのは市民の意識が非常に高い。ごみ有料化になれば家庭で一万円以上の負担になるのではないか。最後が一番大切だと思うのですが、市の市民参加は形だけなのかです。市は生駒市ごみ有料化等検討委員会で有料化の導入を前提とせずの検討としつつ、委員会の答申を待たずして家庭ごみの有料化の方針を決めており矛盾していますと。市長は一般廃棄物処理基本計画にごみ半減と書かれていますが、ビジョンがない。焼却を10年間はやるというビジョンにしか見えなくて、それはおかしいと思う。

委員長：還元はなかなかやっている事例は聞いたことない。

委員：ここで今有料化ありきっていうのはどうなのと私も少し思うが、今の市民側の意見として有料化しないという意見を市民が持って当然だという論調に私は受け取ったが、それも違うと思う。無料がいい人もたくさんいるが、有料でもいいという人もいる。市民は無料でいいはずで、市の考えはおかしいという議論も100%賛同する市民ばかりではないと思う。だから、平等な目でみられるような形で論議しないと、どちらにも偏っていると思う。バランスを取った形で議論すべきだと思います。ここに出てきてい

る市民の方々が、仮に有料化反対という人ばかりならば、有料化に賛成と言う人も入っていただくべきじゃないとアンフェアになるだろうと思います。

委員長：ありがとうございます。

委員：いきなり有料化という部分が納得できない。

委員：小学校で10月までは練習ってことで廃プラの分別が始まっている。目標があって、がんばってくれたら無料で今までどおりでやっていけますという方向性として残して、みなさんが頑張って減らしていきましょうと言ってもらわないと有料化決まっていますが分別はがんばってくださいでは、市民にお願いすることばかりと思う。有料化になったからといって減量にはならないという場合もあるので、まずは減量化をみなさんをお願いして、その結果有料につながっていくのは仕方ないと思う。

委員：自分の家のごみがどのくらい減るかっていうのは、個人でしか実感できない。私は実際にプラごみとミックスペーパーを分けていますが、それとなるべくごみになるものを買わないようにしたら、週1回の可燃ごみに出すのが45リットルのごみ袋に半分程度になった。そこまでにはある程度段階があった、プラごみを分けるのも最初は面倒だった。すごく忙しいときは、洗わないでごみに入れるときもあった。しかし、やっているうちにごみが減ってきたと思えると、プラを分けるのがだんだん楽しくってくる。自分で自分をほめてあげる感覚ですけども個人個人に啓発していくことは、自分で意識が変わってきていますので大切だと思います。

市民一人ひとりがちょっとずつできる範囲からやっていただいて、全体として減ったという啓発も大切です。また、家族の理解が大事で家族の中でも温度差があります。はじめから減量について全部を広報したからできるわけじゃないので、気長に長い目で見ないといけないと思う。

委員長：有料化すると一般的にはやっぱり減ると思う。しかし、みんなの努力で減らそうってなると、お金で払うのではなく時間とか知恵とか汗とかを流さないといけなくて、それも市民の選択です。もちろんそれを仕切る市役所であったり、人件費削減って言われているけど、やっぱり人が必要だったり、いくら地域の人に助けを求めようといっても、やっぱり全然そこにお金がかからないわけでもないで、どういう選択をするかだと思う。

ただ、ごみ減量のためにひとつのオプションとして、有料化という切り札はあると思います。そういう意味で、みなさんがどこでその切り札を使うか、もしくは使わなくて済むかもという視点で議論してもらったらいいい。もし有料化しないってここで決めた場合は、ではどうやってその半減を担保していくのか、そこは相当な時間も知恵も努力も必要で、険しい道だと思います。私は、半減で中期までここまで減らす等の目標値を定めて、それを達成できるように努力して、できないときは有料化を発動するという選択肢もある気もします。

事務局：行政として反省があると感じております。最近徐々にごみが減ってきて、客観的な数字として出てきているが、ごみ袋を黒から透明化にしたから減ってきたということも背景にはある。行政としては唐突に有料化と提案した意識はないです。奈良県下12市のなかでは、6市はもうすでにやっておりますし、2市については有料化していこうということです。施策等々をまず見直して、そのなかでどれくらい軽減できるのかということもまずやって、今回提案させていただいているということで、この2年間ほどはそういったかたちで取り組みをさせていただいています。そういう意味で収集ルートの見直しもさせていただきます。この収集ルートの見直しで効率化が計れ、収集車が1台浮いてくるので、あまったお金を廃プラのほうに充当できる。今後、行政の取り組みについてはきちっと提案、説明等々はさせていただく必要があるのかなと思っているが、行政の方も動き、市民のみなさまにお願いし、お金をとるということだけでこの有料化を検討していただいているわけではない。

委員長：皆さんが思っておられるというよりは、まだ議論の余地がある。それは、市民の意見ということです。

事務局：それは十分耳を傾ける必要があると思う。

委員長：市民の方が本当に努力するから有料化待ってという重要な意見です。財政的にどうしても無理で致し方なくやらないといけないってことだってあるかもしれない。

委員：透明袋にして、ごみの量が減ったというようなことをお聞きしていますが、本当か関係あるのかなと思っている。それ以外のことは経費の問題で、有料化の経費をいま委員長はお聞きになられたのではないと思う。減量化に対する市の取り組みとして、啓

発活動も含めて、どういうことをしていて、なぜできなかったのか。一つの段階的なことをやって、効果が現れないので、有料化がひとつの減量化にプラスになる部分もあると思うのでそのことを聞きたい。

事務局：実際にこの6年間で15%減っているというのは、ごみの排出量の数値で出てきています。そのきっかけとなっているのが、6年前にごみの袋を透明化したというのが一つのきっかけになっていると理解はしている。平成19年度に透明化・半透明化ということでさせていただくに際し、市民の方が出されるときに、今まで中身が見えないということでどんなごみを出していてもいいというのと、収集のほうも、なかに危険なものがあったら分からなくて怪我をするという部分もあった。捨てるのも、周りからこんなもの捨てているのかと思われてもかなわないから、やっぱり捨てるものも注意しながら、あるいは捨てる前には買うものから注意しながらということで、ごみの量も減ってきたと認識はしている。

委員：可燃ごみが減ったっていうのは、ごみ置き場を管理している自治会の立場からいいますと、黒いごみ袋のときには、中に不燃物というか缶とかも混入していた。透明ごみ袋になってからは、可燃ごみの総体が減ったかは分からないが、異物混入は明らかに減っている。

委員：私は透明ごみ袋になってから、いい加減なごみの捨て方をしないようになった。啓発っていう意味では、今まだ何もしていない状態で、このプラスチック容器包装でもみなさん戸惑っている。私はびんとかでも紙のシールが貼ってあったら全部ふやかして取って捨てていたが、別にシールはついたまま捨ててもらってもいいと聞いた。どこまでやったらいいのかわからない。

事務局：市は、ご希望があれば説明に行かせていただきますということで、30近く、自治会に行き、ルート変更と廃プラについて説明しました。今後も情報提供をつづけていきたいと思っております。ただ、自治会が124ある中で、30箇所ちょっとしか行ってないと、極論したら4分の1しか行ってない。当初60箇所以上のほうから声がかかるのか、場合により80箇所くらいまでということで、体制を作ったが結果的には30箇所ちょっとくらいしかないので、10月を迎えるなかでどうなるのか心配ではある。こちらとしては必ず自治会のほうに説明会をもってくださいということは言っていない。集めていた

だく人数の問題、開催の問題等々があるので、ある程度受身にならざるをえないが、できるだけ情報発信しているつもりです。

委員：北地区、中地区、南地区とかで分けたりして、自治会に入っていない人もいっぱいいるので自治会を超えて誰でも参加できるかたちで、いつ、どこの会場でやるから皆さんこぞって参加してくださいというようなものも、含めてやっていかないと、啓蒙っていうのにはならないと思う。

委員：今言ったかたちで、やってみるのもいいかなと思いますけれども、たぶん人が来ないような気がする。

委員：関心の高い人ばかりの集まりになってしまう。

委員：本当に分別してほしいような方はなかなか会場まで足を運ばない。その機会を設けられたとしても、それもなかなか困難な部分もある。市民に分かりやすいようなパンフレットを作るとか、パフォーマンス的なかたちで生駒の駅等で街宣活動をしてみるとか、テレビのスポットコマーシャル的なものとか低コストで使えるのであればと思う。今だといろんなツールがあると思いますので、若い人に訴えたいのであれば、若い人が見るようなメディアを使ってみるのも面白いと思います。

委員：生駒の駅とかでやるのは非常にいいと思う。会社帰りの人たちに、パンフレットを手渡して始めますと1週間くらいやっていたら誰かはつかまるし、啓蒙的なものは足で稼がないとだめなところもあると思う。関心のない方に関心を持ってもらうということほどの会議でもいまいちな感じがします。

委員：もうちょっと行政の方も広報の仕方を今までやってきたものの既成概念にとらわれないで欲しい。パンフレット渡すだけじゃなくて、街頭でパフォーマンスする人とタイアップして、注意をひきつけてもらうようなことをやりつつ、横で宣伝するとか。

委員：市役所の方に私を連れて生駒中回ったらいいといつも言う。市民の力を活用されるのが、私はいいかなと思う。こういう会議に出てきたり、行政が説明会しますと言って参加したりする人は役員さん、行政よりも賢い人、知識のある人が座ってはるわけや

から、意味ないと思います。私は、有料化賛成とは言い切りませんが、何かの切り口がないとごみ減量は乗り越えられない。今までのやり方でごみは全然減らないで増えるばかりです。若い人も子育ての人にもごみを減らせというけど、購入しているものもあるので減量にも限度がある。何かの切り口でないと人間というのは変えられないと思います。有料化は反対とよくおっしゃいますけど、活動するのに人を集めれば、専門家ばかりの集まりで堂々めぐりになりよくなると思う。一人一人が、分別している人も限られています。有料化でもなれば若い人も、夜帰ってからでも分別しようかと思うはず。私は、分別と有料化賛成派と言い切りにくいですが、少なく出せば同じ値段ではないのでしょし、値段が変わってくる。それは水道でも一緒です。少なく使えば少ないし、出しっぱなしやったらたくさんお金いるわけです。私はこの際、これを大きな切り口にしていただけたらいいと思う。住民の意識調査もええ加減なもので、関心の高い人が意識調査に来てくれる。どうでもいい人は、絶対にそんなところに来ない。だから私は、有料化など、何かをして大きく生駒市が変わって、そのなかで、お金が浮いた場合、それをリサイクルに回すとか、子どもの未来のために何かしてもらおうとかという思いで、有料化に賛成したいと思います。一人ずついろんな意見言い出すとおさまらない。この会議の中で決まったことが必ず正しいとは限らない。一度アンケートを実施し、生駒住民が、有料化になってあなたは減量化に努めますかぐらいのレベルで、生駒の住民の意見をいただく。きれいごとではなく、浮いたお金は未来のある子どもたちのために活かしますと言うならば、みんなまた違うかたちで賛成できると思います。

委員：さっきの市議員の紙について、ごみの処理代が年間 9000 円となっているがちょっと怪しいと思う。私が大体出したら 5000 円くらいかなと思った。それは袋を3つも4つも出す人がいたら、9000 円になるかもしれないですけど、出し方によっても随分違うと思う。

委員：平均値をとっていると思う。

委員：いえ、多分全体から割っていると思う。私は実際今回ミックスペーパーを分けて、廃プラも分けてみたが本当にごみが少ない。45リットル袋もいらなくて作成候補として30リットル袋を出してほしいぐらいです。週に3人で暮らしていて意外に少ないと思ったので絶対に9000円もかからないと思った。ただ、でも、私は結構分けて、手間かけて

同じように出す人が同じ値段だったら、それはそれで不公平だと思った。私は有料化でいいと思っているほうです。興味のある人が環境フェスティバルに来て話をすることで、来ない人は何も変わらない。皆平等に有料化になるほうが意識は向くかと思っている。私の周りできいてみても、割と有料化でもいいという人も少なくはない。それを9000円というのはちょっと言い過ぎで、私も年間9000円と言われたら多いと思う。

委員：あれは1キロ2円の計算です。

委員：本当に考えているのは、もっと低いところを考えていると思う。

委員：有料化の金額の査定がどのように持っていくかで大いに変わってくると思います。

委員：だから推したい人は安い計算するし、反対したい人は高めで計算するので、惑わされないほうがいい。

委員：自分のところのごみが少ないとのことですが、私のところ毎日違います。枯れ葉とか草とかちょっと切ったら90リットル袋それにプラス生ごみとかある。袋を透明・半透明にしたことも絶対プラス要因になったと思う。生駒市では無理かもしれないが自分の家の前のごみを置いての個別収集なら責任感がやっぱりもっと出て減ると思う。

委員長：剪定枝とかは有料化対象外にしている都市が多い。近所の清掃分も対象外というところのほうが多い。

委員：指定袋に入らなくても、集めるということですか。

委員：生駒市では公園をみんなで大掃除するときは取りに来てくれる。

委員：剪定枝なんかも、チップにして資源ごみとしてのリサイクルの道が開ければ、とくに有料対象にしなくてすむ可能性はあります。

委員長：生ごみ分別も考えておられるくらいなので分けてもらうほうがいい。

委員：買い物袋の施策を進めたいと思うなら、スーパーさんをお願いして、今買い物袋を持ってきている人にはポイント制にして、それを割引に使えレジ袋を完全に有料化してもらおうのはどうか。

委員長：京都の場合は、1つのスーパーだけでやると客が流れる可能性があるので、協定を結んでいる。

委員：生駒市のECOMAで協定を結んでやっているが、それでも全部が全部変えられない。向こうもお金儲けが目的ですので、お客さんに逃げられてまでという思いがある。一律にはいかないというもある。理想と現実は、なかなかイコールにならない。

委員：日本のお店は親切すぎるがところあります。外国だったら基本的に袋は出さない。

委員長：アメリカ・カナダでは拡大生産者責任って難しいですが、メーカーに引き取らせる品目をできるだけ増やそうということで、市民も行政もメーカーも参加して、みんなで分け合って処理するようにはいき、費用負担も含めて。そういう品目を増やしていく運動を、行政と市民が中心になってやっていて、できるだけ負担を下げていこうという動きもあります。ただ、そこまで気づくには有料化ぐらいのパンチが必要だという考え方もあれば、行政も企業ももうちょっとがんばれるという意見もあるかもしれない。

委員：減量をまずしてから有料化というのはすごく市民を信用している意見だと思うが、私はがっかりすることの経験も多い。

委員：有料化だからもう全部入れるとはならないか。

委員：そういう人もいるかもしれないが、意識の上がってくるのに期待したい。

委員：入れている人は、有料化でも今でも入れている。

委員：行政も分別収集説明に30箇所しか呼んでくれないではなく、呼ばれないでも行ったらしい。

委員：80箇所を目標にするべきだったと思う。

委員：10月始まったら市民が窓口押し寄せて仕事にならないので、10月まで端から回ったらいい。

事務局：説明会の開催を個別で自治会長に声かけたが門前払いのところもある。

委員：町内会の掃除の際プラスチックの分別が来月から始まるけども、説明会してないと突然言われたのでみんな困ってしまった。

事務局：自治会長は、行政がもっとPRしたらいいと言われ、行政として広報に載せ、ごみの集積日程表というの配布しているのに敢えて、新聞折込みまですべきか心配しています。新聞折込みしたときに、なんでそんな金使うのかということにもなります。

委員：みんな広報も見っていない。自治会長に言って、自治会長が組長にしっかり周知しておくのが大事。

委員：たとえば新聞に一つのアピールで、新聞記者のほうに情報流して、10月1日からのことを載せてもらうなりある。

事務局：たぶん、廃プラをこの10月1日から生駒市が始めるとしても他市がやっていますので記事にならない。

委員：環境関係は、広報で知らされていないというのが一番感じます。

委員：問い合わせがすごく多かった地域とか、分別があまり徹底されてなかったっていうような報告があった地域は、自治会長さんが拒否しても、行きますとしたほうがいい。

委員：強気でいかないと改善されない。有料化とか以前の問題です。住民パワーをうまく利用して、口コミで広げていくっていうひとつのやり方と行政のやり方があってこそその行動です。環境意識の高い市民を上手につかって、無料で動いてもらったら浸透する

と思います。行政はその辺が上手に使えてない。

委員：広報見てないって言われているけど、市の情報は広報に集約されているわけで、やっぱり市民としては広報を見るべき。

委員：会社人間はほとんど広報あることも知らない。

委員：私は見ない人には広報は見なさい、見ないと損と言います。見ないことは、市民として市民税払っている限り行政サービスは受けないと駄目だから、見るのが義務というくらい言う。見なくて分からないのは当たり前という感じにすべき。

委員：広報誌は必要ない。

委員：アンケートとりましょうか。

委員長：どっちにしてもこれアンケートとったほうがいいのかもかもしれません。

委員：広報活動ですと、生駒市もいろいろ大会等やっているならそういうところへ行って、来る人に知ってもらうようなアピールをするなど機会を利用しないと。

委員：ついでにするのが行政は下手。

委員：難しい問題です。行事中に聞いてと言っても関係ないのでと断る人がほとんどです。

委員：寄ってくる人は分別している人です。

委員：ごみの有料化については一度アンケートをとってもらった方がいいです。最低でも1000人くらいは抽出して必要じゃないかと思う。

委員：説明に行っていないところがあるというのは行政が弱い。結局、説明不足って言われるから呼ばれなくても行けばいい。

委員：私昔自治会の役を受けたことあるが、開催することが邪魔くさいので市民に直接話しに行く方法を考えろと当然言います。

委員：役員会のときでもいいのでそこで5分だけでもいいので行ったら行きましたと言えるが行かなくてあとで文句言われたら駄目。

事務局：8月に広報のなかでチラシ入れさせてもらったら、なんで邪魔くさいことをさせるのかという電話は結構多いです。

委員：日本ではEPR(拡大生産者責任)がほとんどない。自治体が何かやってほしい。

事務局：今法律の中に拡大生産者責任みたいなものを盛り込んでもらうというのがこれからの大きな課題です。法律を改正していただくため生駒の場合でしたら市長の意見書なり、議会の意見書まで採択していただいて、国のほうへ届けているので、生駒市でできることはしている。

委員：我々は、目に見えたものがほしい。

委員：ごみの減量に大きな要件になってくると思う。

専門委員：京都のごみ減量推進会議は、自分ところの広報媒体もっていますか。一般のマスコミとかに頼ると、非常に記事に限られてしまうので、媒体を持つ必要があると思う。

委員長：ただみんなが読んでいるかと言われるとわからない。

専門委員：実情を知らせようと思ったら生駒の場合は媒体持ったほうがいい。

委員長：情報をどこから得ているかとか調査をしたほうがいい。

委員：商工会の代表の方が、会社では企業内の教育としてごみ分別もきちんとされていると

こもあるのを言っていた。そういう方は、家庭に帰ったときに家庭内のごみ分別ができないはずはないと思う。社会人としての自覚の問題であろうと思う。

委員長：アンケートはしっかり設計してするので、案出していただきましょうか。市民団体と協働でもつべきかいろんな可能性がある。

委員：市民団体と協働してするほうがいい、行政だけが何かする時代じゃない。

委員：市民団体が多いのですが、使いきれてない。みんなやりたがっているのをどう使うか。さきほどの周知が残っている自治会団体に、行かないとあとで言われます。呼んでくれないところは意識が低いという評価で、なおさら行かないと駄目。

専門委員：このジレンマはどの市でもみんなあります。行政関係で引き受けてくれる方がいないから、自治会長自身の仕事がいっぱいある。大半の方は、仕事が増えると思いません。せっかく会館を使っても、役員だけが来ざるをえないのが現状です。その中では市民を使ってくださいとは非常にありがたい意見です。

委員：それは10年前から言っている。

委員：124自治会あって、30自治会しか言ってこないって、それぐらい意識が低い。この廃プラ自体がこんなにも戸惑っているのに有料化なんかない。

委員：自治会長としては市からどうしても行かなきゃいけないのですと言われたら受けざるを得ない。

委員：有料化について124の自治会を1年で説明会を網羅するっていうのは大変だと思う。だから、何組かに分けて、今年はこの地区を重点的にまわり、ごみについての意見交換でもいいですし、説明もさせていただいて、住民の意見も聞きますというようなのを今後やっていけばいい。

委員：今回の廃プラの問題も、お金とられるわけでもないのに「聞いてない」で済むかもしれないけれど、有料化の問題はお金払うことだから、廃プラとすごく差があると思う。今

各自治会を回るっていうノウハウを確立しておいて、絶対説明に行くところを確保しておく。廃プラで行ったときに、生駒っていうのはごみ半減プランっていうのを立てました。10年間のうちに1年でこれぐらい減らないと駄目と目標があって、できないと有料化しないといけないと、期限をきったような計画を示して、自治会をまわっていく。もしかしたら2年後に有料化というのも含め、自治会を回って行って、その結果目標までも減らなかったら、有料化になったとしても、努力して、市も動いて、広報もして、説明もしたのにできなくて、市民の責任でしょうみたいなことが言っていける。そうなったら、私たちも努力する2年間という期間をもらえます。行政もそこまで説明して、双方ががんばったけど無理だったから減量的手段で有料化ですという形だと、みんながしっくりいく。有料化ありきみたいで、今年に答申してしまっただけで、なんとなく始まってしまったら、詐欺にあったみたいな気持ちになる。みんなが努力する猶予をたとえば1年、2年なり決めておいて、歩いてみての結果もいいと思う。そのためにもプラスチックで説明会を開くというノウハウを蓄積するのはとても大事。

委員長：今日用意してもらった資料は、プラと紙のことで半減プランそのものもそうですし、理解していただかないといけないと思う。だいたい2～3年というのをまずは努力する年、そこで目標に達しなかった場合は有料化しないといけないというような結論というものありだとは思いますが。

委員：生駒も京都に負けてないくらい意識高い。やる気ある人いっぱいいるが、上手に使いきれない。

委員：今大震災の復興税とかいう部分もでてきている、それなりに負担していくようになると思う。その上にごみを有料化して負担するのはしんどいと思う。

委員：一家族どれぐらい要るのか。もしもで計算すればどれぐらいの金額になるのか。

委員長：1リットル1円位なので30リットル1袋30円ですので、1週間にだから50円位。

委員：400円もするコーヒー飲んだりしている人もいますので大丈夫ではないか。

事務局：市の勝手な試算ですけれども、標準の1世帯で月400円～430円位。これは燃え

るごみも燃えないごみも全部含めて、それぐらいかなという試算をしています。

委員：それはしっかり分別したらもっと低いということでしょう。400円という金額は今の時代でも余分に出て行けばきついが、環境が良くなれば私はいいと思う。

委員：有料にしないと環境がよくならんというのが正しいのかという疑問。

委員：正しいとは思わないけれども、みんな努力しても、なかなか変わらないのが現実です。

委員：行政としてどういう啓発をされたのか、やり残していることないのか。

委員：努力したうえでの有料化です。

委員長：それは大前提です。

委員：今でもごみ袋をスーパー等で買っているわけなので無料と言っているが、全然無料ではない。例えば剪定ごみとか、生ごみとか、ちゃんと分けてくれる人の分は、袋をタダで分けて、頑張る人は差し引きゼロになるみたいな逃げ策があったらいいように思う。頑張った人にはごほうびが来て、がんばらない人には負荷がかかるみたいなことになるような気がする。でも、段階踏んで、みんなの努力を見てからの有料化と私は思う。

事務局：今まで集団資源回収で三十数年前からずっとやってきている。呼びかけは、今までずっとしてきたが、呼びかけはいくらしても、行政から言っても、市民の方が響いていただけない部分も多分にあるような気はしています。もう限界がきているかと思う。市民へのPRということは良く分かるが、どういうふうにも市民の方に響いてもらって、どうやって行動におこしてもらえるのか、今のところはノウハウとして持ってない。自治会長は、間違えてごみが出ていたら市で取りに来てくれで終わってしまう自治会長もいる。それは実態としてあるが、市民の方に行動してもらえる方法が具体的にあるのであれば、いくらでもさせていただきたい。

委員：有料化を実施して、分別等の説明会に来てもらった市民には無償でその袋を配って

あげたらいいと思う。

委員：環境に興味があつて、減らそうとしている人や話をきいてくれた人にはそれを配るのはいいと思う。何も得もないのに聞きに来ないです。

事務局：今年の4月にこの委員会を立ち上げて、生駒市は有料化するかもしれないという話が、市民の中でそれなりに伝わって、タウンミーティングのなかでもごみ問題の話題が出てきます。今回、昨年まではなかったので変わったというのは確かなことです。そうなればやはり環境問題とかCO2削減とかいろんな環境の問題のために努力していきましょうという本来の目的が説明できます。

委員：減量化をされていく過程でひとつのごみ集積所のごみ量をみんなでごみを減らすのに頑張っている所があれば、その取り組みを追いかけてみてレポートを載せてみるのもいいのでは。

委員：それは面白いと思う。

委員：どのくらい減りましたとか、たとえばごみが減ることによってカラス被害もなくなりましたとか、プラス面での宣伝も載せてみるとか。

委員：こういう団体等とタイアップして考えていかないと、行政手法だけでは広がり薄いと思う。

委員：ひとつのごみ集積所で実際に変わったみたいなほうが、視覚的にも分かるような気がします。

委員：例えばごみを減らすコツを募集するとかもいいと思う。

専門委員：今出たようないろんなメニューを私たちがあちこちから集めてきて、生駒市に適用できるメニューを議論したら面白いと思う。

委員長：すべての前提として、コミュニケーション努力がいると思う。それはリーダーの方を活

用するのを含め、啓発としては自治会に対して有料化まで行かなくても、プラスチックとか紙ごみについては知恵を絞ってやる。有料化するにしても、半減化を呼びかけるにしても、経路や道筋を作っていないと無理だという認識なので、それはするという合意でよろしいですか。(反論なし)

委員:自治会長さんだけに言っていたら駄目。主婦の方になるべく多く集ってほしい。地域で広告塔みたいな人達を巻き込みしていかないと無理かと思う。

委員:行政はお金ではなく、体だけ動いてくれる団体を上手に使っていくべきと思う。

委員長:意識調査もしてみると今後の指標になる。今は低いけど、実はプラ分け始めたらちょと改善していくかも知れないので。

事務局:今日の資料に入れさせていただいているが、市民の意見を聞く必要があると思い、広報とか活用していこうと考えていたが、今日アンケート調査という声もいただきました。

委員長:意見は、熱心な人や偏った意見のある人しか来ないと思うので、アンケート調査でもいいかもしれませんし、郵送調査でもいいかもしれませんし。どちらにしても、完全にこれが生駒市民を表しているというのは難しいと思います。

委員:そういう調査したっていうのはひとつの逃げ道ではないけども、一度段階を踏んだという意味では、成果が上がるが上がるまいが別として、広く市民に聞いたことにはなる。

委員:この廃プラをやる時期なので、そのこともふまえてどれくらいやりますかとか、今までの説明でどれぐらいの人が理解しているかとかいうのも、分かっていると思う。

事務局:市民の意見をきくという方向についてはこちらもそのような方向では取り組んでいきたいと思っておりますので、それについては委員長と協議しながら、アンケートにするのか、どんな項目にするのか相談させていただきます。

事務局：アンケートについては、委員長と副委員長と協議の上でできるだけ早い時期にさせていただくという方向で相談します。先ほど出た月いくらというのは出していかないといいのか悪いのかということもやはり答えにくいと思う。事務局の試算ということでは言わしていただいている月400～420円というような金額でとりあえずアンケートなりこういった広報での意見はひとつの案として出していいか。誘導したのと違うかと言われたらそういう意図はないので確認まで。

委員：これぐらいやったら有料でもいいという人もいると思う。でも、月1000円超えたらいやだっていう人もいると思うので、これぐらいやったら負担してもよいみたいな聞き方でもいいのかと思う。

委員：有料化とおっしゃっているが、今そういう傾向になっていることは私も知っております。ごみ半減をしたいという市長の10年間プランありますが、それで生駒市は有料化しないで、ごみ減量に立ち向かってこれだけ努力するという方向で持って行くことはできないのか。

委員長：今はそれも選択肢となっています。

委員：有料化がやむを得ないというなら仕方ないですが、もっとごみを減らすための色んなことを考えて検討するようにもっていけないのでしょうか。

委員長：それも先程ご発言もありましたが、期限を切らないでやっけていてもだめなので。例えば3年後ここまでいけば達成とか、5年後ここまでいけば達成とか目標をたててやっけていくという可能性もあると思います。是非、そういうご発言ということで聞きとめておきます。ただ、重要なのは、広報も含めて本当にそれで減るような手段が出てくると市民にとっても非常に辛い選択になるかもしれないということ。それを判断するうえで、一度意識調査をしてみようということです。市民が変わっていくのかどうかということは、この中の議論だけでは見えてこないのを見ていこうということではないかと思っております。それはひとつの落としどころとしてあり得ると思います。

委員：現行の生駒市の施設で生ごみを処理しようとする、前にいただいた資料のように施設の改修が必要になって、何億円かのお金が必要だというのはあります。ごみの有

料化以外のところからその財源を持ってくるというのであれば、市民の側で現在の生駒市のサービスの中からそれだけ相当のものが削られるというのも覚悟のうえで、それを受け止めたうえで、ごみの有料化をしないという方向を出さないといけない。今プランの中に生ごみの利活用というのが入っている限りは、その負担というのをどうするかという議論もする必要があると思います。

委員長：広報とかコミュニケーションで減らせる部分というのはあると思いますが、後は減量の計画で有料化の発動をしないようなやり方であるとか、生ごみもシステム変更をどこまで許容してやるか、また議論がある。一定の努力期間がまだ足りないと思うが、ここの中では総意のような気はします。生ごみの減量というのは、かなりのウエートを占めていて、そこの支出をどうしていくかということはある程度年度ごとに考えていかないといけないと思います。事務局と知恵をしぼって議論できるような材題を見つけないといけないと思いますのでよろしくお願いします。

今日は、用意した資料はほとんど手つかずの状態ですが、今回の議論があったら変わっていた資料もあるかも知れませんが一応目を通しましょう。

ごみ有料化に関する基本的事項というのが、事務局側の方で作った資料ですので今日の議論も含めると変わる可能性があるのですが、これは参考に見ておいてください。

下記の配布資料について委員長から内容を説明

- 資料1 家庭系ごみ有料県内他市状況
- 資料2 有料化市の資源物有料化実施状況
- 資料3 全国のごみ処理手数料の徴収方法の状況
- 資料4 手数料の料金体系
- 資料5 不法投棄の発生状況等
- 資料6 その他案件資料

下記の資料について地域計画建築研究所から内容の説明

資料 紙ごみの減量に向けて

- 1 ごみ半減に対する紙類資源化の寄与

- 2 新たに紙類の資源化を推進する方策
 - 3 紙類の資源化を推進するための取組別の問題点
 - 4 古紙回収の推進方策
 - 5 有料化の導入と古紙回収の推進の論点
- 参考 他都市事例等から

委員長：紙類は、今のプラとも併せて、行政、市民の努力でどこまで減量できるのかを試してみるの、いい素材ではないかと思えます。みんなが相当がんばらないと達成できない数字なので、意識調査も含めて、一現状ではどんなものだろうというのをみていってみようじゃないかと思っております。

事務局：リレーセンターは、10月からは家庭系の清掃センター直送、来年4月からは事業系も直送となれば、リレーセンター自体が持ち込み、市民あるいは企業からの持ち込み拠点として残しますが、規模が縮小する部分があります。また、リサイクルセンター等の利活用の方向で考えており、大型ごみについてはリユースとかできるようなかたちで考えていくという方向で検討しております。

委員：是非、実施して欲しい。

委員長：一度アンケートと目標を決めて、それに向かって有料化を導入しなくて済むかもしれないですけども、一回どういう絵がかけるのかというところを事務局と相談します。お疲れさまでした。

この議事録が正確であることを証するため、議事録署名人はこれを署名する。

平成 年 月 日

議事録署名人

議事録署名人